

# アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、  
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## コリン・モリカワ選手

今季最初のメジャー大会である全米プロゴルフ（PGA）選手権が、米サンフランシスコで行われ、幕を閉じた。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら無観客試合、さらにメディア会見も人数とオンラインと、厳しい制限が掛けられていた中の試合となった。

様々な有名選手が注目され、優勝を期待されていたタイガー・ウッズのメジャー16勝目ではなく、ブルックス・ケプカの大会3連覇でもなく、世界ナンバーワンの王者ジャスティン・トーマスの大会2勝目も、ジョーダン・スピースの生涯グランドスラムでもなく、松山英樹による日本人男子初のメジャー制覇でもなかった。全米プロを制したのはメジャーに2度目の挑戦で初制覇を達成した、175センチの小柄なショートヒッターであるコリン・モリカワだった。

米カリフォルニア州ロサンゼルスで生まれ育ち、幼少期からゴルフをはじめたそうだ。名門大学であるカリフォルニア大学バークレー校で経営学を専攻し、成績も優秀で人柄も抜群。ジュニア時代から数々のタイトルを獲得し、大学時代はオールアメリカンに3度も選ばれ、世界アマチュア・ランキングで1位にも輝いたモリカワは、大学卒業後の2019年にプロ転向。才能に溺れることなく努力家、関係者皆がその性格を「謙虚」と讃え、そのスマイルは出会う誰をも魅了しているという。

「これはまだキャリアのスタート」とモリカワは話していた。コロナによって変わった生活の中で行われたメジャー大会。新様式のメジャーで、新時代のスターが誕生した瞬間であった。

松山英樹選手の活躍以来、日本のゴルフファンの目は、国内での優勝より、PGAでの優勝、願わくばメジャーの勝利を期待している。一昔前になるが、尾崎将司や青木功、中嶋常幸などのビックスリーの挑戦、丸山茂樹の活躍、石川遼の参戦などの世界での活躍を夢見る選手を期待する日本のゴルフファンも、今回のコリン・モリカワの勝利には、心から拍手を送っていると思う。彼が中国と日本の混血であったとしても、「モリカワ」という日本人の苗字がマスコミのトップを飾り、ゴルフジャーナリズムの全てのスポットライトを独り占めしたのは、日本のゴルフ市場に与えた影響は大きく、素直に応援したくなる。

ゴルフは、肉体のスポーツではない。ゴルフは、自然と人間の持つ頭脳との戦いなのだ。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。